

H^{OSTELLING} Magazine



Cover Interview

シンガーソングライター

平井 大

出来ないことが増えている時は、
出来ることも増えている。

この冊子は、宝くじの社会員献広報事業として助成を受け作成されたものです。



おいしさを、選ぼう。



ぼくらのミカタ。
ランチパック



HIRAIDAI

Concert Tour 2021-22

9 . 18 - KANAGAWA	11 . 3 - HIROSHIMA
9 . 20 - IBARAKI	11 . 6 - OKAYAMA
9 . 23 - NIIGATA	11 . 20 - NAGANO
9 . 25 - SHIZUOKA	11 . 21 - MIE
9 . 26 - AICHI	12 . 5 - OKINAWA
10 . 16 - OSAKA	12 . 12 - MIYAGI
10 . 22 - HYOGO	12 . 15 - HOKKAIDO
10 . 23 - SHIGA	1 . 29 - KUMAMOTO
10 . 30 - CHIBA	1 . 30 - FUKUOKA
10 . 31 - SAITAMA	

TICKET - ¥7,200

Official Website : <http://hiraidai.com>



Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning And Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

※本誌の情報は2021年6月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 眞

TEL. (03)5738-0546

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

Line up

02 Cover Interview

シンガーソングライター 平井 大

出来ないが増えている時は、出来ることも増えている。

08 Youth Hostel Pick up

京都市宇多野ユースホステル

人と人の繋がりが作る、ユースホステルらしいユースホステル

12 Hostelling Magazine × 地球の歩き方

世界はさまざまな色にあふれている！

癒しや落ち着きをもたらす

絶景カラーセラピー

17 おしえて!旅GIRL

18 Sustainable Tourism

20 松鳥むうの晴れときどき旅びより

22 YOUTH HOSTEL LIST

出来ないことが増えている時は、出来ることも増えている。
平井大



PROFILE

平井大 (ひらい だい)

サーフミュージックをベースに、オーガニックなライフスタイルと、ウクレレ&アコースティックギターが奏でるサウンドで注目を集めるシンガーソングライター。サブスクリプション音楽配信サービスでの楽曲総再生回数が15億回を突破するなど、聴き手の人生に深く寄り添う楽曲たちが、若者を中心に絶大な人気を集めている。

2011年、ハワイ最大規模のイベント「ホノルルフェスティバル」の公式イメージソングに「ONELOVE-PacificHarmony〜」が披露され活動を本格的に始動すると、iTunes BEST OF 2012 J-POP ベストニューアーティストに選出。

2013年7月、ミニアルバム「Dream」でメジャー・デビューを果たすと、Aloha YOKOHAMA、ZUSHIFES、SUNSETLIVE、SUMMER SONICなどのフェスに多数出演し、夏のイベントに欠かせないアーティストとして精力的に活動。

2016年にリリースした楽曲「Life is Beautiful」が、北島康介出演のハウス食品ジャワカレーCMタイアップ楽曲として使用され、話題を集める。

2019年「映画ドラえもん のび太の月面探査機」主題歌に披露。同年、横浜アリーナでの単独公演も完売させた。

2020年は5月20日から2週間に1度、今年3月からは「Sunday Goods」をテーマに3週間に1度のペースで新曲をデジタル配信リリースし話題を呼んでいる。

TikTokは絶対やらないと思っていた

— テレビやラジオもそうですが、特にSNSで平井さんの音楽を耳にする機会がとて増えたように思います。コロナの影響がまだまだこの先どうなるかわからない状況ですが、平井さんのポジティブな音楽とメッセージが、SNSを使う若い人たちにとって、勇気や元気、癒しになっているみたいですね！

(笑顔で)ありがとうございます！

— コロナで社会活動が制限される中、昨年から新曲のデジタル連続配信が続いています。ファンにとってはうれしい機会ですけど、どう思ういでスタートしたんですか？

デジタル連続配信は前々からやりたかったんです。パッケージになった音楽ではなくて、その時々、タイムリーに作りたいものを作って、ダイレクトに皆様に届けたかった。以前から提案はしていましたが、どうしてもCDという形にまとめてリリースするっていう固定概念みたいなものがあって、なかなか実現できませんでした。それがコロナがあって、世の中が大きく変わった。この変化は僕にとってはポジティブでしたし、もともと考えていた音楽を届ける形を具現化できました。ソーシャルメディアに写真をアップするという感覚に近いのかな。「いい写真撮れたからInstagramにアップしよう」とか、何かそういう感覚で、「いい曲ができたから皆様に配信しよう！」そういう感じでしたね。

— 2020年は2週間に1曲。2021年は“Sunday Goods”をテーマに3週間に1曲というペースで配信されています。これは相当大変な仕事だったのではないかと…。

いやいや、大変じゃないです。「飽きたらやめます！」って言うてたんで(笑)。

— ホントですか！？ 書いていいのかな、これ(笑)。

ぜんぜん書いてくださいよ(笑)。いつもは夏休みをとれなかったんです。フェスもいっぱいありますし。でも去年はフェスが全部なくなってしまって。それはほんと残念ですけど、久しぶりに夏休みが取れて、すごいい充実していました。変化するって当たり前だと思うんですよ。コロナだからということだけじゃなくて、社会は変化していくものですし、自分の心境だったりも日々変わっていくものですし、変わっていくものに対してポジティブに捉えていくのか、ネガティブに捉えるのかも人それぞれ。だからその受け取り方って大事になって。僕にしても、去年やっていた音楽と今年のは全然違うし、伝えたいメッセージも変わってきていると思う。そういった意味では柔軟性をもって現状に対応していくことが大事なんじゃないかなあ。

— 変化といえばTikTokやインスタライブなど新しいメディアや仕組みに積極的に取り組んでいらっやいますね。

インスタライブは前々からやっていたので、コロナだからということでもなかったんですけど、TikTokは、僕は絶対やらないと思っていたんです。

— え？ あれだけバズっているのにですか？

最初は「なんか胡散臭いな〜」って(笑)。でもパートナーから「やってみようよ！」って言われて始めたんですけど、すごくたくさんの人から反応があって。けど、ちょっと残念なのは、まじめに弾き語っているのよりも、裸で踊っている投稿の方が…再生回数が多いんですよ(苦笑)。

— それはつらい(笑)。

ぜんぜん、それでいいんですけどね(笑)。本質的な音楽も聴いていただきながら、僕のキャラクターも表現できるということではTikTokは良かったと思いますし、自分で決めつけないことも大事なだと今学びました。積極的に楽しく挑んでいくのも大事なのかもしれないですね。

— この状況下でも様々な活動を続けてくれている。ファンからすればとてもうれしいことです。

僕は音楽しかできないですし。辞めちゃうと食っていけなくなっちゃうんで(笑)。ただ楽しく作って、楽しく聴いていただく。そういうあたりまえのことを、もう1回、原点に立ち返ったという印象はあります。無理してやっても、あんまりいいことないですから。この時代にかかわらずですけど、なんか無理してやるのは良くないなあって。いやなのに無理して…みたいな、そういうのは好きじゃないです。

— この間の積極的な音楽活動にしても無理にではなく「やりたい」というところから自然に始まったのでしょうか？

そうですね！曲を作るのはとても楽しいですし、ストレスはないです。逆にアルバムを作る時より楽でした。アルバムを作るとなると大変。全体的なバランスもみなければいけないですし、そういうものを全部はぶけた。この曲が売れるか売れないか精査する時間もないですし(笑)。

— その時の生の言葉であったり、サウンドであったり、これをやりたいんだっていう気持ちがあるまま出ているように感じました。

この手法だと、その時々々の社会のことだったりも、その曲に盛り込みやすくなります。より皆様の生活に寄り添えるような作品を目指せる、そんな環境になっていると思います。去年、結果的に曲がたくさん出来たのでアルバムにまとめてリリースしたんですけど、好評をいただいて、いい形になったのかなと思います。また1曲ずつを1枚にしてボックスセットにすることも決まっています、それもまた2020年の思い出が詰まったものになればいいなと思っています。

— 振り返って作るのではなく、その時に作ったものを後からパッケージにするというのはおもしろいですね。

今までのやり方ってすごく矛盾もあったのかなって思うのは、曲をいっぱい作ってどの曲が受け入れられそうかって吟味して、それを押し曲にして、出してみたら売れなかったってこともあった(笑)。すごい効率悪いですよ。2週間に1曲ずつだして、反応の良かった曲をさらに盛り上げていくというやり方もあるのかと思いますね。自分の思いも曲に乗せるんですけど、受け取り方も人それぞれで、誰かに聴いていただいたときに初めて曲って完成する。その時のその人の人生の背景にあるものと自分の音楽が混ざり合って、1つの音楽として完成する。ソーシャルメディアが発展していく中で、自分にもダイレクトに皆様の声が届くようになった。こういう聴かれ方をするんだなというのわかりました。昨年ですと、僕の音楽を使って思い出の動画を作ってもらったりカバーしてもらったりとか、自分の音楽の、今まで見ることのなかった可能性を見ることができた。音楽のアイデアが枯渇することなく、曲を作り続けることができたのは、そうやって聴いていただける皆様がいるからだって。



— 枯渇することがないというのはまたすごい話です。悩んでないはずはないんですけど。そういう変わっていくものが、どんなサウンドになって、どんなリリックになって出てくるのか、すごく楽しみになります。

そうやって聴いていただけると嬉しいですな！

— 動きといえば、9月からはライブツアーも始まります。どういったものになりそうですか？

まだぜんぜん考えてなくて。ギリギリにならないと考えるんで(笑)。ただ久々ですから、まずはバンドメンバーとつくりあげるところからはじめます。時間が空いた分、今までとはまた違う音の表現が生まれてくるかな。今までとは違う新たな「平井 大」というものが見せられるかなとも。そのあたりは僕自身も未知数であり、楽しみにしている部分でもあります。

— 緊張感がありますね！

毎回緊張してるんですけどね。だーれも緊張を受けとってくれないんですよ(笑)。今までは週に1度とかライブをしていたので日常になって、自分の中では、慣れないように緊張感をもってステージに立つようにはしていたんですが、ここまでスパンが空いてライブをするというのはなかったの、すごく新鮮な気持ちです。

— 意気込みを聞かせてください。

楽しい空間になればというのがひとつですよ。ライブに来てつまんなかったって言うのは一番良くないですし、僕ら演奏している方もそうですが、来ていただいた皆様が楽しかったなって思える空間にしたいですね！

なんで好きなのか？を掘り下げていくのが自分のライフワーク

— さて、ここからは平井さんの学生時代について聞かせてください。まずはそのころ好きだった音楽。

今でもそうですが、アメリカ西海岸のカルチャーや音楽が大好きでした。サーフィンやスケートボードといったヨコノリ系のスポーツとそこに付随する音楽。それが生活の中にありました。こういうライフスタイルが、文化がかっこいいなという、憧れがあったと思うんですよね。そこから好きになっていった。そこで自分の音楽のルーツとなっていくものを探っていく。それが10代だったかな。当時から結構、「掘っていく」のが好きで、西海岸のヒップホップ、好きだったDr. Dreとか2Pacとか聴いていて、「彼らの音楽のルーツってなんだろう？」「あ、ファンクっていうのがあるんだ。じゃあ聴いてみよう」「そのルーツにあるモータウンも聞いてみよう！」みたいな。ミクスチャーであれば、掘り下げていくとカントリーミュージックがあったり。いろんなルーツミュージックを自分の中に取り入れられたのは大きかったかなと思います。

— 西海岸からモータウンのデトロイト、東海岸のミクスチャーにカントリーの中西部。ルーツを探りながらアメリカ中を旅しているような感じもします。

ですね。暖かいところに行くと音楽は緩くなりますし、逆にイーストコースト、ニューヨークだとビートがタイトになっていくとか、土地土地の音楽の違いも面白いです。

— 癖なんですか？掘り下げていっちゃうっていうのは。

なんなんですかね～。好きなものを分析していくのって楽しいですよ。好きになった理由はあるはずなんですよ。でも、最初に好きになるときって直感的だと思うんですよ。「かっこいいな！」とか、「やってみたいな！」とか。そのあと、「なんで好きになったのか？」っていうのを掘り下げていく。これは自分のライフワークになっています。音楽だけでなく、映画、スポーツ、写真も。直感で好きになった文化を掘り下げるのは好きですね。

— 多感な時期にどんどん好きなものと出会って掘り下げていく。でも、今はなかなかできない状況でもありそうです。

ぜんぜんできますよ！僕はあそこ、好きな音楽に出会っても、掘り下げるためにはCD屋さんに行って探したり、アメリカの雑誌を取り

寄せたりしないといけなかった。今はインターネットで検索すればいい資料が出てきますし、曲も聴ける。僕ね、今の若い世代の人たちはすごく恵まれているなって思います。ソーシャルメディアの発展によって新しいカルチャーが生まれやすい状況でもあるし、自然に探究することができるというのはとてもいい時代になったと思います。

— 逆に当たり前すぎて気づかないこともあるかもしれません。

気がつかないもんですよ。ただその当たり前の中でも生まれてくるものがある。とりあえず、いろんなものを好きになってみるっていうのはすごく大事なことなんじゃないかな。好きになる瞬間にバックグラウンドに何があるのかとか、考える必要ないと思うんですよ。例えば絵だったら、“ピカソが書いたから”いい絵ではなくて、その絵が良くてカッコいいところからはって、「あ、ピカソの絵だったんだ！」って。そっちのほうが、何かに恋をするというときにナチュラルだと思うんですよ。だから僕も、何に対してもなるべく固定概念をもたないようにしています。「この人が作ったからすごい」と思わないように。音楽で言えば、今、インディーズで陽の目を浴びていない人達がいっぱいいますけど、素晴らしい音楽やってますよ！インディーズで音楽やっているからダメなんじゃないんです。売れてない音楽だからダメなのかと言えばそうではない。その人がどうか、背景がどうか、最初の一步では関係ないですよ。そっちを重要視しがちじゃないですか、「売れているクリエイターに頼めばいいだろう」「有名な写真家さんなら間違いないだろう」って。そういうことではないでしょう。

— もっと直感を信じていいと。

それしかないと思いますよ。僕みたいな創作活動をしている人間はなおさらかもしれないですけど、直感を信じるしかないですから。今はいろんなものをいろんな角度から見られる時代ですし、直感を信じられる地盤はできていると思います。

一生の思い出になった旅の景色。 でも、その時ってそうだと気づかない。

— 先ほど話に出てきた西海岸やハワイは平井さんの音楽のルーツ的な場所でありホームグラウンドのような場所ですが、“旅”の経験がサウンドに反映されることはあるんですか？

それはもちろんあると思います。ジョシュア・ツリー（国立公園・LA郊外モハーヴェ砂漠を中心に生息するユッカの樹「ジョシュア・ツリー」が並ぶ絶景が見られる）で夕陽を見てすごいキレイだなと。それが直接的に曲につながっているかどうかはわからないんですが、そこで見た色であったり、吸った空気だったりとかは自分の表現の幅としては、絶対に含まれていると思います。時間の過ぎ方だったり、そこにいる人のライフスタイルだったり、素敵だなと思ったことが、何でも音楽の糧になっている。すべてが音楽につながっていきます。ただ、どういう風にサウンドとして昇華されているかはわかりません。もしかしたらギターのソロのメロディーだったり、音のひずみ具合かもしれない。でも、僕ねえ…“何かを探しに行く旅”って、あんまり好きじゃないんです(笑)。“自分探しの旅”とかいうじゃないですか、「あれ、なに探しに行ってるだろう？」って思うんですね。近くで探せないものを遠くを探しに行くって効率悪いと思うタイプで、生まれ育ってきた環境なんかを掘り下げると、すぐそばでも見つかるのって自分は思っちゃう。

— 今置かれている自分の環境の中でも出会えること、探せることがあるということでしょうか？

日常生活っていうのがまず大事だと思うんですよ。その中でなにがピックアップできるのか。空の表情も日によって全然違いますし、星空を見上げてまったく違う表情だったりもします。興味を持ってばなんにでも出会える。日常生活を価値のあるものにできる。そうすると、好きなものを直感的にピックアップする癖がつかます。それがあって旅に行くときすごく役立つ。僕、ヴィンテージものが好きなので、LAに行くと骨董屋さんを見に行くんですけど、あるのはだいたいガラクタなんです。でもその中に、光るものを見つける喜びがある。それも普段から“これが好きなんだ”、“あれが好きなんだ”ってピックアップできないと、新しいものに触れたときに直感が働かない。

— 何がガラクタかっていうのも自分の判断なわけですね。

そうです。僕が持っている車も、見る人からすればガラクタかもしれないです。でもその中で自分なりの価値をつけていくという感覚ですかね。なんかね、これいいなって思えるものがあるんです。不思議に。最初はわからない。なんで好きなのか。例えばあるネックレス。それを調べてくと、“昔ネイティブアメリカンたちが闘いに行く前につけていた”とか、“子孫繁栄のためにつけていた”とか、“これが1920年代に作られたものなんだ”とか知っていくとその価値がわかってくる。「ああ、だからこういうことで好きなんだな」って。奇跡ともいえるし、必然的な出会いだったのかもかもしれない。

— 無理に何かを見つけようという旅ではなく、行った先でなにかと出会える可能性。それも普段からの延長線上にあるんですね。

その時に気づいていなくても、後々振り返ってあの旅、良かったなとか、あの景色が一生の思い出になっている。でも、その時ってあまり気づかないんですよ。だからこそ旅って楽しいって思う。ふとした瞬間に、そこで流れていた音楽を思い出したり、あのご飯美味しかったな、みたいな。

— 日常の延長線上といえば、平井さんは旅先での予定はほぼ決めないらしいですね。

そうなんです。なんか、予定立てるのが苦手。明日何をするかもわ

からない(笑)。その日になにをしようと決めないで、今日のはんびりビーチにいよう、今日はちょっと街をぶらぶらしてみよう、その日にしたいことをする。ま、東京にいる時とあんまり変わらないですね。気が向いたら海、疲れたら家。曲作りもしない。休みの日はなにもしない。朝起きて決めるみたいな。僕、恥ずかしがり屋なので。「なるべく話しかけないでくれ」ってオーラ出してます。でも、海外行くと話しかけてくる人多いですよね。

— そうはいつでも、平井さんは英語も堪能ですし、コミュニケーションは楽なんじゃないですか？

でも流暢ではないですよ。留学もしていないし。小さいときからアメリカの音楽が好きで、周りに話す環境があって、あとはよくよく向こうにいて、そこでの知り合いが多いというのはありますかね。

— 英語も自然な形で身についた。西海岸のカルチャーや音楽のルーツを探っていく際にも武器になったのでしょうか。

好きになるって大切ですよ。好きにならなければ英語の曲を作ろうとも思わないでしょうし、ギターうまくなりたとも思わないでしょう。憧れるというのは上達する秘訣なのかもしれないですね。

— 今後行ってみたい場所はありますか？

もう少し歳をとったらヨーロッパも回ってみたいなあ。小さいころは考古学者になりたかったです。ミイラを作ってみたいなんて思ってた(笑)。だからエジプトもいいですね。歴史好きなので。

— 最後に読者にメッセージをお願いします。

好きなものを掘り下げることが、どこにいてもできる時代です。自分自身で縛ってしまうのはもったいない。自ら自由を奪ってしまう。あれできない、これできない。自分の中で決めちゃってる部分もある。コロナ禍になってからさらにそういう気持ちになってしまっているかもしれません。でも、出来ないことが増えている時は、その対比で出来ることも増えているんです。それを自分でやるか、やらないかで差がついちゃう。僕の曲作りやデジタル連続配信もそうです。こういう今だからこそ、直感的になにかを好きになったり、好きになれるものを探していける。そういう気持ちで楽しい日々を過ごしていただければ、と思います。

HIRAIDAI Concert Tour 2021-22 ペアでご招待!



9月18日から全国19ヶ所を巡るコンサートツアー

「HIRAIDAI Concert Tour 2021-22」に抽選で2名様をご招待!

■応募は日本ユースホステル協会ホームページ【<http://www.jyh.or.jp/hm/>】から!

■応募締切: 2021年7月末日

《ご当選発表について》

8月1日10:00に日本ユースホステル協会ホームページにてご当選された方の受付番号を掲載いたします。



コンサートツアーの詳細は[平井 大 オフィシャルサイト]をご確認ください。

<https://hiraidai.com/>





つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.25
まとめてダウンロード



おしえて！旅GIRL P17



Cober Interview P02

シンガーソングライター 平井 大
出来ないことが増えている時は、
出来ることも増えている。



Sustainable Tourism P18



Youth Hostel Pick up P08

京都市宇多野ユースホステル

人と人の繋がりが作る、
ユースホステルらしいユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより P20



Hostelling Magazine x 地球の歩き方 ... P12

世界はさまざまな色にあふれている！
癒しや落ち着きをもたらす
絶景カラーセラピー



YOUTH HOSTEL LIST P22